

崇城大の第3代学長に就任する 小野^の長^{なが}門^とさん



「学生の個性を伸ばして夢を育てる。社会の変化に柔軟に対応できる人材を育成し、地域活性化に貢献したい」。前身の熊本工業大から31年在籍し、第3代学長に就任する。

崇城大の強みに「体験型教育」を挙げる。ロボットコンテストや地域課題の解決型授業など実践の場を多く設けている。「仕掛けをさらに増やし、学生に自信を付けさせて社会に還元したい」。2011年の教育改革では、座長としてチューター制度を導入した。クラス担任とは別に、教員1人が学生5人ほどに対して、卒業まで勉学や将来設計をサポートする。

専門は金属工学と機械材料。「機

械の材料にも強さや硬さなどいろんな性質がある。なぜ変形するのか、突き詰めていくと全て原子レベルの話につながり面白い」。理論よりも実験を大事にする。

座右の銘は、徳川家康の人生訓「重荷を負うて遠き道を行くがごとし。急ぐべからず」。人工知能（AI）の発達をはじめ急激に変化する社会で「伝統を踏まえながら、社会のニーズに即した改革を着実に進めていく」と意気込む。

玉名市出身。防衛大学校理工学部を卒業後、東京工業大大学院理工学研究科の博士課程を修了。防衛庁技術研究本部第一研究所で、戦車の砲弾の研究をした異色の経歴を持つ。少林寺拳法4段の腕前で、趣味は野球やサッカーなどのスポーツ観戦。玉名市で妻（57）と長女（23）の3人暮らし。「疲れたときは、地元の温泉とサウナに行きます」。63歳。（元村彩）

人
ひと